

緑の風



令和8年・2月号

ホーム <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~wakisho/> E-mail wakisyo@sky.icn-tv.ne.jp

「節分に思うこと」～節分の行事が続いているわけ～

校長 福江大幸

○厳かな気持ちで心の中を見つめる節目

2月と言えば節分。今回は厳かな気持ちで『節分』について考えてみます。本来、節分とは季節の節目である立春、立夏、立秋、立冬の前日のことをいい、年に4回あります。冬から春に移る立春は、旧暦では正月節にあたり、2月の節分は1年の始まりとして特に重んじられていました。昔から季節の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、様々な邪気祓い行事が行われてきました。豆まきも、新年を迎えるための邪気祓い行事でした。



このように日本には、昔から伝わる伝統行事があり、それぞれに人々の大切な願いや思いを伝えて、今もなお伝承されています。AI 到来以来、グローバル社会、少子高齢化等、めまぐるしく変わる現代だからこそ、日本の伝統行事や地域社会に伝わる様々な行事や人々の思いに、目や耳を傾け、大切なことを忘れ去ることのないよう、心を整える大切な日でもあるとも感じます。

○邪鬼・厄をつくり出さないために～人権感覚とポジティブ思考～

厄（災害や病等）は、人間の感情の中から生まれることもあります。立場や意見の違いから生じる怒り、誹謗中傷、いじめ、暴力、戦い、国際社会の中でも争いごとは尽きません。このことは、人として大変悲しいことです。

考え方の相違があるのは当たり前です。それを話し合いで解決できるのが人間です。相手の状況や思いを理解し、考え、話し合い、解決策を見出すことができます。子どもたちには、人権感覚を養い、問題が発生したら様々な角度から考え熟考し、人々と協力して熟議し、問題解決ができるようポジティブ思考をもった大人になるよう力をつけてほしいと願います。

私はこれまで、子どもたちと「心の中の鬼をやっつけよう！」という話をよくしていました。子どもたちは、自分の心の中には「泣き虫鬼」「意地悪鬼」「怒りんぼ鬼」等がいると教えてくれます。様々な人間の弱さに気づき、心の中のいろいろな鬼を見つけ出してくれます。子どもたちの心はまっすぐです。



和木小コミスクひろば



1月15日（木）「睡眠」をテーマに学校保健安全委員会を行いました。講師の講話の後に保護者の方々にも参加していただき、親子でグループ協議を行いました。司会の児童が中心となって、どの班も積極的な話し合いができました。また、保護者の方からもご意見をいただくことで、児童だけでは思い浮かばないような、違った視点からの考えも出ており、話し合いがより活発になりました。

約45名、たくさんの保護者の方々にご参加いただき、有意義な時間となりました。

